



新治小学校だより

令和元年度

6月号

学校教育目標：ひびく心 はすむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して活かしながら、

よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和元年 5月 31日

「自ら」よりよく伸びようとする子どもたちの姿を支えていくために…

校長 宮本 雅司

初夏が感じられる季節を迎えました。学校では、6月1日の運動会に向けての活動が盛んです。リレーや応援、全校での全体練習、各学年の演技や競技等に、子どもたちは一生懸命活動しています。PTA役員・委員の皆様、地域の皆様には、ご協力ご支援をくださり、誠にありがとうございます。



『伝統を守り、協力し合い、赤白共に全力でたちむかおう』のスローガンのもと、全力で取り組む子どもたちの姿に、温かいご声援を何卒宜しくお願い申し上げます。

5月は、挨拶にも重点をおいて指導してまいりました。ご家庭での子どもたちの様子は如何でしょうか。先日、歴史博物館見学に出かけた際、誰に指示された訳でもなく、自分から他の乗客の方に席を譲っていた6年生の姿にふれました。この子どもたちには、自身の資質や能力として、このような気持ちや行動が身に付いているのだろうと感じました。価値ある言動を身に付け、自らよりよく成長しようとする子どもたちの姿をこれからも励ましていきたいと思っています。

5月は、今年度1回目の『はぐくみ協働運営協議会(学校運営協議会)』がありました。地域・保護者・学識経験者・教職員の各々の代表をメンバーとして、よりよい学校づくりを中心に協議している会です。今年度11年目を迎えています。一部ですが主な話題です。

- 地域や保護者は学校の応援団である。PTA活動に携わることで、親も成長していくことができる。
- 悩んでいる保護者が相談しやすい環境をつくりたい。スクールカウンセラーの現状はどうか。学校をまじえずに相談できる機関も必要だろう。
- スクールカウンセラー(第三者)に話す難しさもあり、最初の窓口は先生や学校になるケースもある。
- 虐待はどうか。○不登校状況はゼロではないが、保護者と連携をとって対応・支援している。
- 中学生の場合だが、教室には行けないがスクールカウンセラーの部屋には行くことができるケースがある。カウンセラーは常駐していないが、信頼感が伝わるようにしていく必要はある。中・高生になると生徒同士の関係で改善されるケースもある。

[その他、中期目標及び重点取組、絨毯の張り替え案、物資搬入車や職員駐車場の連絡等]

今年度も、新治のよさを持続して活かしながら、生活科や総合的な学習の時間(わくわくの時間)の教育活動に取り組み始めているところです。今年度からは、特に、子どもたちの主体性や自己肯定感、コミュニケーション力等をより育てていきたいと考えています。

大人として子どもたちに伝えたいことは多々ありますが、いつも「○○しなさい」と指示しているばかりでは、きっと子どもたちの意欲や自主性を育むことはできないでしょう。ご家庭でも学校でも、『子どもは自らよりよく伸びようしている存在』と肯定的に捉えていかなければ…と思います。子どもたちの中には、稲作活動について率先して里山交流センターに聞き取りに行ったり、市民の森愛護会の方からいただいた竹や自然のものに関心を寄せていたり等、自ら学ぼうとする姿も見え始めています。昨年度末から、保護者の有志

の方々が子どもたちと醤油づくりに取り組んでいて、これも学校の教育課程と繋げていくことができるのでは…と楽しみにしています。保護者や地域の方々、専門家の方々等に支えていただきながら、子どもたちがよりよく成長できる教育活動を創っていききたいと思っています。

